

工場本部 品質検査課 山田 幸希

2006年(平成18年)に新卒で旭紙工株式会社へ入社した山田幸希さん。工場本部の品質検査課で、様々な製品の品質チェック業務に携わっています。山田さんに、仕事をする上で心がけていることや仕事のやりがいについて聞きました。



——入社のおかげについて教えてください。

もともと本が好きで、小説や漫画をよく読んでいました。就職先を探すにあたり、学校で配られる求人案内を見ていたのですが、そのときに旭紙工の求人を目が止まったのです。製本や紙製品の加工を行う業務内容が、好きな読書とリンクし興味を持ったことが入社のおかげでしたね。

——現在はどうなお仕事をされていますか。

入社した当初から工場本部で働いています。最初は中綴じ部門に配属され、他の部門でも少しずつお仕事をさせていただいた後、断裁部門を2年間経験しました。入社して4年程して品質検査課が新設され、こちらでの仕事を任せられるようになりました。

品質検査課は、最初は私1人だったのですが、現在は私を含めて3名のスタッフがおり、お客様に納品する見本などの検査を分担して行っています。製品には、中綴じ加工、折り加工、無線綴じ加工、カレンダー加工など、様々なものがありますが、それぞれ基準に合っ



た仕上がりになっているか、お客様のご依頼通りの仕上がりになっているかを細かく見ていきます。

——検査をする上で大変だと思ふことは何でしょう。

1日で検査する製品の種類は10種類くらいですが、それぞれにボリウムも異なりますし、寸法があっているか、傷や汚れがないかなど、検査する項目も多岐にわたります。エラーは、重大なものであれば1つの製品につき平均して10個くらい。細かなものを含めるともう少しありますが、それをすべて間違えないように確認していくので、とても気を使いますね。

特に、前工程の段階までで遅れが生じ、製品の検査日程がぎりぎりになってしまった場合などは、焦ってしまいミスも増えやすくなります。間違いがあれば、すぐに上司や関係する部署に報告し、まわりにもサポートしてもらいながら、なるべく早く軌道修正するようになっています。

——特に気をつけている作業などはありますか。

検査する項目の中に分かりにくいものがあれば、常にきちんと確認を取ってから作業を始めるようにするなど、失敗がないように心がけています。また、ミスを防ぐという観点から、情報共有は非常に大切だと感じているので、細かい内容であっても、課の他のスタッフとも情報を交換し合うようにしています。

例えば、不具合が見つかった製品があれば、見本の検査を確認しておかなければいけません。メモに書いたり、「こういう不具合があったよ」とお互いに報告し合うことで、不具合への認識が高まり、より注意深く検査できるようになります。

——仕事をする上で達成感を感じるのとはどんなときですか。

やはり、間違えることなく検査業務を終えたときですね。上司や他部署の方から、「山田がいるから大丈夫だね」などと声をかけていただけると、努力を評価していただいていることが分かり非常に嬉しく思いますし、次もがんばろうという気持ちになります。

「品質検査」をする部門としてきちんと機能することが仕事をする上で最も大切なので、「確認」に何よりも重きを置いています。ミスを減らすためにできる対策は小さなことでもすべて行おうという意識でいますね。

製品には多くの種類があり、お客様の要望によって寸法や基準も異なります。製品ごとにある検査項目を毎回きちんと確認し、些細なことでも見落とさない観察力を持って品質管理に取り組む山田さん。高いプロ意識を持って、今後会社のために力を尽くしていくてくれることでしょう。



企業情報

- ◆創立年：1983年1月
- ※創業：1963年
- ◆年商：15億円
- ◆従業員数：200人

※ 2018年12月実績

設備紹介

—ハイデルベルグ ST-300—



セットにかかる時間が半分以下でも2丁製本ができる、
ハイデルベルグ社製造のST-300。
今回は副工場長の山野さんに機能や注意点、
やりがいを感じたエピソードを伺いました。皆さん必見です！

私が紹介
します！

工場本部 瓜破工場
副工場長
やまの ひろゆき
山野 博之さん

2冊同時に！

Q.どのような機械なのでしょう？

2丁製本といって、1回の製本過程で2冊分の冊子を作ってしまう製本方法をするときや、A7サイズなどの特殊な小さい本を作るのに長けた機械です。プリマという別の機械でも2丁製本はできますが、セットに2～3倍の時間が必要ですから、その差は歴然。現在、ST-300は2台あり、5鞍と6鞍が1台ずつで、両方ともよく使っています。



～2丁製本とは～

決められた方法で折った時に正しくページ順に並ぶように、1枚の紙面上でページを配列していくレイアウト作業のことを「面付け」と言います。この面付けの際に同じものを天地方向に2面配置して印刷することを「2丁付け」と言い、1枚の折丁に2冊分の印刷が施されているという意味を表しています。これをそのまま1冊の本のように折丁・丁合し無線綴じや平綴じ・中綴じなどで綴じて、化粧断ちの時点で真っ二つに裁断すれば、2冊の本になるというわけです。このように、1回の製本過程で2冊分の冊子を作ってしまうという製本方法を、「2丁製本」と呼びます。

18年もの付き合い

資格や免許は
不要！

4名しか使えません！

導入当時からの
ベテラン

全長
約18メートル！

マニアックな折丁

ハイスピード・
ハイクオリティ

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか？

2002年ごろです。私が1997年ごろに高卒で入社してから、約5年後にST-300が導入されたと記憶しています。もう18年もの長い付き合いです。

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか？

資格や免許は、一切必要ありません。本気で習得しようと思えば、半年か、半年経たない程度の期間で覚えて操作できるようになります。新たに社員が入ってきたら、先輩社員が教え、一つひとつ覚えていく形です。

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか？

中綴じ部門の社員はたくさんいますが、ST-300を使用できるのは、4名のみです。

Q.その中で一番「達人」は？

田中よしおさんです。この機械を導入した当時、先に操作を始めた方なので、年数で言えば一番長いのではないのでしょうか。これまで、様々なトラブルに対応してきた経験がありますから、ST-300についてはトップクラスの達人だと思います！

たなか よしお
田中 賢彦さん



Q.使用上での注意点はどこでしょうか。

一つ約18メートルもの長さがある機械ですから、操作するときには必ず周囲に人がいないか確認しなければなりません。もし可動部に手を入れてしまうようなことがあれば、腕が無くなったり、最悪の場合は死に至ったりするほど、危険な機械です。実際に過去には、ある社員がベルトに巻き込まれて、皮がめくれる怪我をした人がいます。そのため、自分自身が怪我をしないように注意することはもちろん、周囲に巻き込まれそうな人がいないかということに、注意を払っています。

Q.その設備を使用しての仕事のやりがいはなんでしょう？

「これほど特殊な本を作ることは不可能だろう」と思うほどのマニアックな折丁が、実際に完成するのを見ることでしょうか。3時間ほど試行錯誤することもあります。できたときの達成感は格別です。

Q.今後の目標

ハイスピード、ハイクオリティを追求していくこと。パソコンなどの精密機器と同じで、機械も10年、20年と使い続けると弱ってきってしまうので、機械の修繕・改善も行いつつ、人材教育も併せて行って行きたいと思っています。

SDGs とは？

SDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標) とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」をキーワードに進められる国際的な取り組みであり、日本としても積極的に取り組まなければいけない目標とされています。

SDGsに取り組む企業

皆さんにとって身近なゼネコン大手の「大林組」では、持続可能な開発目標を参考に独自の重点目標を作り、「環境」「品質・技術力」「労働安全衛生」などに着目した6つの課題に取り組まれているそうです。また、LIXIL グループでは2017年に『みんなにトイレをプロジェクト』をスタートさせ、世界のトイレ不足の解消とともに劣悪な衛生環境の改善に取り組まれていました。(日本で提供する全ての一体型シャワートイレ1台の購入につき、簡易式トイレシステム「SATO」1台を寄付) 少し異なる業種である「ボーダーレスジャパン」という福岡にもオフィスを構える企業では、自然エネルギー100%で作られた電力を販売する「ハチドリ電力」事業、農業人口の減少が要因で発生する課題を解決する「みらい畑」事業など、貧困、差別、偏見、環境問題などの解決に取り組まれています。

今後の課題

私たちが目の前で取り組んでいる「仕事」から目を移すと、社会全体には取り組まなくてはならない問題がたくさんあります。これらの問題を解決するために、私たちは今までとは違う価値観や角度で物事を捉え、社会全体の視点で物事を考えることが求められている時代ともいえます。これからは今まで以上に視野を広く持ち、世の中に貢献する活動や事業を探索することが可能な会社づくりを目指していきましょう。



SDGsについてもっと知りたい方は
こちらからも確認できます！
<https://www.sdg-sjp/about/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



健康コラム 第12弾

食欲の秋がやってきました。つつい食べすぎてしまうことも。食べすぎること自然と塩分の摂取量も増えてしまいます。

美味しいものを味わいながら、その中身に目を向けて、量と質を見直してみるのはいかがでしょうか。

塩分に気をつけよう



塩分はほどほどであると美味しいですが、摂り過ぎは身体に悪影響を及ぼします。塩分を摂り過ぎると、高血圧症になりやすくなり、血圧が高くなれば動脈硬化が進み脳卒中や心臓病を引き起こし、脳の血管の痛みは認知症にもつながります。また、塩分は水分をひきつけて体の水分量を増やすため腎臓に負担をかけるほか、胃がんや骨粗鬆症のリスクも増大させます。このように塩分の摂り過ぎは様々な病気を引き起こす原因になってしまうのです。

塩分を減らすには

①薄味に慣れる

薄味に慣れてくると素材の持ち味がわかるようになります。塩分計などを用いて自分の味を確認すると良いでしょう。

②漬け物・汁物の量に気をつける

塩分の多い漬け物や汁物は、食べる回数と量を減らしましょう。汁物は具だくさんのものを選び、麺類を食べるときには汁を残すようにしましょう。

③効果的に薄味を

塩は食べ物の表面にさっとふりかけ、醤油やソースなどはかけるのではなくつけて食べることで塩分の摂取量を減らすことができます。

④カリウム、カルシウムの摂取

生野菜や果物によりカリウムを、乳製品や大豆製品からカルシウムを摂取し、体内ナトリウムの排出を心がけましょう。

強い血管を作るための食生活

長寿に血管の健康は不可欠です。血管にやさしい食事をするにあたって次のポイントを意識してみましょう。

①塩分摂取量を減らす

男性は1日8g未満、女性は7g未満の塩分摂取量を目指しましょう。

②カロリーを抑える

油の多い食材や炭水化物を食べすぎると、血管を傷つけるだけで

なく、肥満や糖尿病につながる危険性があります。1日の摂取カロリー量を意識し、腹八分目を心がけましょう。また、偏食や間食に注意をし、ゆっくりよく噛んで食べるなどの工夫が大切です。

③

若々しい血管を維持するには野菜や果物といった抗酸化作用を発揮する食材が効果的。特に野菜は1日に350gを摂取することを目標に、様々な種類をまんべんなく食べることが大切です。

健康を維持するために最も大切なのは「継続的に良い食材を食べること」です。その日だけ健康的な食材を摂取したところで大した効果は表れません。献立を考えるときには、様々な種類の食材を使用することを意識してみましょう。食材の種類が多いほど健康を守るために欠かせない栄養素を摂取できます。とはいえ、毎日何品も調理するのはとても大変です。週末に作り置きする、電子レンジを使用して洗い物や調理の手間を減らすなどの工夫を凝らして無理なく続けていきましょう！

